

## 自己評価報告書

平成23年4月18日現在

機関番号：18001

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20730158

研究課題名（和文）教育のシステムデザインに関する理論分析ならびに実証研究

研究課題名（英文）Theoretical and empirical study on the system design of education

## 研究代表者

岩橋 培樹 (IWAHASHI ROKI)

琉球大学・法文学部・准教授

研究者番号：50423736

研究分野：経済学理論

科研費の分科・細目：経済学・応用経済学

キーワード：教育の経済分析、システムデザイン、地域発展

## 1. 研究計画の概要

本研究は教育のシステムデザインをテーマとし、経済学的アプローチに基づいた理論的枠組みを構築するとともに、実証的な分析を行うことを目的とする。本研究の特徴としては、教育成果が不確実な状況下における教育の意思決定を記述する理論モデルを構築し、それに基づき実証的な検証ならびに政策的な提言を行うところにある。

## 2. 研究の進捗状況

理論モデルの構築に関しては、各個人がそれまでの教育成果を前提として、自身の適性や能力に関する期待値を条件付きでアップデートし、効用を最大化するよう教育に関する意思決定を各期に行う動学的理論モデルの構築に努めた。そこでは、早い段階での専門化（もしくは才能の選抜）は（最終的な教育成果が不確実であるがゆえに）個人を過度なリスクにさらす一方で、専門化を遅らせることは、非効率な教育につながる。こうしたトレードオフに直面した状況で、専門化を行うタイミングならびにその選抜基準に関して望ましい教育システムのあり方を検証したのが実証面での成果である。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している  
理由：毎年度に掲げる計画通りに研究を進め、その成果を研究会等で発表するとともに、一部成果は、海外の専門誌に掲載される運びと

なっているため。

## 4. 今後の研究の推進方策

理論モデルの構築と並行する形で、実証面への応用に努める。具体的には、近年のコンピュータの進歩に伴い、より高度な分析が可能になったことで注目を集めている動学的意思決定モデルの構造推定手法を用いて、教育および職業選択の意思決定に関わる諸要因の推定を目的とした研究を行う。こうした理論・実証両面からの分析を行うことで、教育システムデザインの効率的なあり方や、経済の発展や産業の多様化が教育の意思決定ならびに（転職を含めた）職業選択に及ぼす影響を明らかにすることが狙いである。

## 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

- ① Kenn, Ariga, Georgio Brunello, Roki Iwahashi, Rocco Lorenzo “On the Efficiency Costs of De-tracking Secondary Schools in Europe” *Education Economics*, 1469-5782 (electronic paper) 査読有
- ② 岩橋 培樹、亀山嘉大「地域資源に基づくまちづくりと都市間連携」、2010年、ICSEAD 研究報告書、9-11

[学会発表] (計 1 件)

- ① 経済学理論研究セミナー、大阪市立大学、  
岩橋 培樹、"The Stairways to Heaven:  
A Model of Career Choice in Sports and  
Games, with an Application to Chess"  
2008 年 6 月 27 日